



Photograph



各国の文化を体験

(9月13日)

国際交流フェアinすそのが市民文化センターで開催されました。世界の国々のブースが出展されたほか、ステージでは姉妹都市オーストラリア・フランクストンの小学生のダンスなど、各国のパフォーマンスが行われました。

(広報特派員 山岸 康一、中村 隆司、
杉本 武満、森 健)



この記事の
動画はこちら



100歳の長寿をお祝い

(9月15日)

100歳長寿者市長訪問が行われました。市長と赤十字奉仕団の杉山委員長らが御宿の勝又順夫さんの自宅を訪問しました。長寿のお祝いとして、内閣総理大臣からの祝い状や銀杯が贈られたほか、市からの祝い金などが手渡されました。「体に悪いところはなく、風邪もひきません」と語る勝又さんはお酒と辛い食べ物は苦手。「これが健康の秘訣かもしれません」と市長らと会話を弾ませていました。



富士山積み木でヒノキの香りと 感触を楽しんで

(9月16日)

富士山麓で育った富士ヒノキで作られた「富士山積み木」100ピースがカントリー工房mamuからこども家庭センターすこっぴに寄贈されました。同工房代表の大石さんは「遊びながら創造力やバランス感覚を育ててほしいです」と思いを語り、市長は「子どもたちが木のぬくもりを全身で感じて感性を養ってくれることを願っています」などと感謝の言葉を述べました。



ベトナム陸上競技代表チームが 市内で合宿

(9月18日)

ベトナムの陸上競技代表チームが名古屋市で開催された第20回アジア競技大会を前に、市内で合宿を行いました。選手らが市役所を訪れ、市長は「日本の食事や温泉も楽しみながら、ぜひまた裾野市を合宿地として利用してほしいです」と歓迎。ヴ・ゴック・ロイ監督は「1週間温かく迎えてもらい感謝しています」と笑顔で応えました。



オレンジのライトで認知症への理解を深める (9月19日)

認知症月間と世界アルツハイマーデーに合わせ、認知症のシンボルカラーであるオレンジ色にちなんだオレンジナイトピクニックがせせらぎ児童公園で開催されました。「認知症の方にやさしいお店 チームオレンジすその」加盟店などの飲食物ブースやキッチンカーなどが出店されたほかチラシ配布などが行われ、認知症への理解を呼びかけました。(広報特派員 小林 建次)



250人のステージで大ホールリニューアルを祝う (9月22日)

市民文化センター大ホールのリニューアルを記念したコンサートが開催されました。富士山麓祝祭オーケストラと裾野ジュニアプラスの演奏に合わせて、公募で集まった市民と合唱連盟の約160人が「威風堂々」や「翼をください」を合唱。重ねてきた練習の成果を結集した迫力ある演奏と歌声が満席の観客を魅了しました。(広報特派員 原 久子、小林 建次、杉本 武満)



夏目幸弘さんが世界マスターズ陸上で銀・銅メダルを報告 (9月30日)

世界マスターズ陸上競技選手権2026で優秀な成績を収めた夏目幸弘さん(深良)が、市長を表敬訪問しました。同大会は35歳以上の選手を対象とした国際的な陸上大会です。夏目さんは、8～9月に韓国の大邱(テグ)で開催された同大会60～64歳の部100mで銅メダル、4×100mリレーで銀メダルを獲得しました。コーチに付いて本格的に練習を始めたのは7年前ということです。



市内で初めて緊急銃猟訓練を実施 (10月9日)

クマの市街地への出没や居座りを想定し「緊急銃猟訓練」を実施しました。5月にクマの出没が相次いだことを受けて策定した「被害防止に向けた対策本部運用マニュアル」に基づき、緊急銃猟を行う際の訓練を初めて実施。市職員や猟友会、警察など約40人が参加し、目撃情報の連絡から現地拠点設置、避難誘導、発砲による駆除に至るまでの動作を緊張感を持って確かめました。